

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 10 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22530827

研究課題名（和文）

多様な能力認証への数値的統一国家尺度の研究 イギリスの後期中等教育修了段階の検討

研究課題名（英文）

Non-traditional Assessment within the National Qualifications Frameworks: Examining Upper Secondary Levels in the United Kingdom

研究代表者

柳田 雅明 (YANAGIDA MASAOKI)

青山学院大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：20260523

研究成果の概要（和文）：

数値的統一国家尺度が能力認証への多様な取り組みにかかわる際の課題が、イギリス連合王国での後期中等教育修了水準において、政策推進と学術理論との関連性をも含め、さらに明確に特定できた。同じ教育機関に選別的選考で入学した同級生同士で統一国家尺度の水準にずれが生じている実態があるなど、理念通りに運用できていない状況も確認できた。現場に共通する組織的対策や暗黙知を学術的に整理することは、今後の課題となった。

研究成果の概要（英文）：

Regarding the multi-layered national attainment standards in the United Kingdom, I more clearly identify approaches and challenges to various non-traditional assessments at the secondary levels, from the aspects including governmental promotion and academic theories. Cases in difficulties with coherent operation and management are found, for example, in the same academic years with difference of the national levels even at selective higher educational institutions. Regarding institutional measures and tacit knowledge shared through the practice, systematic analysis of the collected evidence and data is remained task, in order to organize academic fruits more.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：統一国家尺度 包摂性 UCAS Tariff イギリス 高大接続

1. 研究開始当初の背景

本研究は、つまるところ、一斉筆記型試験

には限界があるという強い認識のもと、そうでない代案を提案するために必要となる知見を獲得することを目指したものである。そ

の知見について、先行していると想定したイギリスでの取り組みから示唆を得うると考えた。

2. 研究の目的

そこで、イギリス連合王国を対象に、厳正で十分機能しうる学習成果認証が一斉筆記型試験以外でも可能となっているかを、前回科採択課題である「学習成果の厳正な評価判定は、筆記式一斉試験以外で果たして可能なのか」(研究代表者 柳田雅明、研究期間、平成 17(2005)年度～平成 19(2007)年度、基盤研究(C))を土台としつつ、検討考察することとした。本研究課題でも、現地イギリスでの現状と課題を整理検討し、日本の文脈における示唆を得ることを目指した。

その研究を発展させるにあたり着目したのは、高等教育入学者選考における統一換算表である UCAS Tariff (大学・カレッジ入学機構統一換算表)であった。同換算表においては、従来型筆記試験に基づく資格群の他に、実技審査およびポートフォリオ方式による学習成果も、連合王国統一の数値的尺度の元に位置付けられている。これは、現在の日本における入学者選考が、筆記試験の他に A0 入試等様々な方式を導入しながら、その運用は基本的に実施校のノウハウと責任でいわば分断された形で行われてきた状況とは異なる。とはいえ、このような一律尺度による方式を導入することで問題点も予想された。

3. 研究の方法

研究方法としては、イギリス連合王国 (United Kingdom) の 3 自治地域 (Nations) で実施されている認証が、地域内そして地域・国を超えてどのように機能し通用するのかを、現場・自治地域・連合王国という 3 層構造にて 3 年間で比較検討していった。検討対象とする能力認証は、職業系の各種資格ならびに、イングランドとウェールズにおいて黄金のスタンダードとされてきた GCE-A レベルとスコットランドのハイヤー資格群 (Scottish Higher Qualifications)、およびポートフォリオ評価方式を積極的に取り入れるウェールズ・バカロレアそして国際バカロレアを中心とした。

具体的作業として、まず文献資料およびインターネット情報を含む電子化された情報をこれまでの研究代表者の蓄積を踏まえつつ、理念・歴史研究関係のものを含めて検討した。その上で、実践実物資料の分析と現地訪問による見学・ヒアリングとを組み合わせ実施した。ヒアリング調査は、送り出し側としては義務教育後の課程を有する中等教育機関とし、受け入れ側としては大学等高等

教育機関とした。準構造化した質問項目を事前に先方に伝える方式を基本とした。授業実践見学とともに、現物資料の雛形を分けていただき、また実物資料(学習材)をデジタル・カメラ等で撮影をさせていただいた。受け入れ側教育機関へは、入学経路別クラス設定の有無、指導法上の工夫を中心に、内部資料も閲覧・複写等をしつつ、聴取できた。

訪問調査は、3 年度にわたり各 1 回計 3 回行った。まず、文献資料および電子化された資料を、これまでの蓄積を踏まえつつ、検討した。

(1) 平成 22(2010)年度は、2011 年 3 月にスコットランドにて、現場の参観・陪席そして研究進展上で核となる実践家と研究者へのヒアリングを、次の通り実施した。いずれの訪問地においても、学習材等実物資料(およびその書式)を収集でき、使用中のものも多くを撮影させていただいた。

- ① スターリング大学にて、本研究分野において指導的立場にある同大学教員たちの企画調整により、同大学の成人向け高等教育機関入学準備課程の授業観察ならびにその担当教員とのフォローアップのヒアリング・討議、
- ② 成人の高等教育機関進学等を支援する公益法人である SWAP ウェストの尽力により、スコットランド補助金評議会による Widening Access Conference (Learning for All) の陪席(会場パース・コンサート・ホール)、
- ③ 成人の高等教育進学支援のための公益法人である SWAP ウェスト (Scottish Wider Access Programme West and Central Consortium) の専門指導員による企画調整・同行によって、SWAP ウェスト本部への訪問・ヒアリング、成人学生向け Study Skills Day 陪席(会場グラスゴー大学)ならびにノース・グラスゴー・カレッジおよびセント・ロッセス中等学校の授業参観。
- ④ 次の各大学にてそこに在勤する 5 人の現地学術研究者に、専門的見解聴取および意見交換(グラスゴー大学 3 人、エディンバラ大学 1 人、グラスゴー・カレドニアン大学 1 人)。

(2) 平成 23(2011)年度現地訪問調査は、2012 年 3 月にウェールズを中心として、現場の観察そして核となる人物へのヒアリングそして実践と現物資料の写真撮影を含む資料収集を、以下の通り実施した。

- ① アトランティック・カレッジ (Atlantic College) にて、ウェールズ・バカロレアの原型となる先進的取り組みの授業観察ならびに教員・生徒とのヒアリング・討議、
- ② ニース・ポート・タルボット・カレッジ (Neath Port Talbot College)、ナショナル・ウォーターフロント博物館・スウォンジー

館(National Waterfront Museum, Swansea)、ACT トレーニング社(ACT Training)およびカーディフ・アンド・ヴェイル・カレッジ(Cardiff and Vale College)において、ウェールズ・バカロレアの実際に関して、授業観察ならびに実践者とのヒアリング・討議、

③ウェールズ・バカロレアを一貫して推進し研究開発してきた機関である WJEC(旧ウェールズ合同教育委員会が独立法人化して再編された組織)での開発担当者とのヒアリング・討議、

④ウェールズ・バカロレアの企画・立案と立ち上げ・推進で中核となり、現在ウェールズ議会議員となつていえるキー・パーソンへのヒアリング・討議、

⑤キングズウッド・スクール(バース)(Kingswood School, Bath)における外部学力認証試験と全人的教育とがあいまった、ウェールズに隣接しつつもイングランドで実施されている対照的な取り組みの授業観察および教員・生徒のヒアリング・討議。以上の現地訪問調査で得られた知見は3月の現代イギリス教育研究会および九州現代イギリス教育研究会で紹介した。

(3)平成24(2012)年度現地訪問調査は、スコットランド(追加分)とイングランドを対象とした。前2年度と同じく、現場の観察そして核となる人物へのヒアリングそして実践と現物資料の写真撮影を含む資料収集を、以下の通り実施した。送り出し側としては義務教育後の課程を有する中等教育機関とし、受け入れ側としては大学等高等教育機関とした。具体的には、以下の機関・組織を訪問した。

①ダンディー・アバティ大学、ラングサイド・カレッジでは、スコットランド・バカロレア(Scottish Baccalaureate)の生徒受け入れ拠点校としての取り組みについて、学習材として情報システム・プレゼンテーションを交えてのヒアリングの実施。

②行政執行機関となるスコットランド資格機構(Scottish Qualifications Authority, 略称 SQA)では、政策推進担当責任者と研究開発担当者との事実確認を中心とするヒアリングの実施。

③エディンバラ大学では、スコットランド・バカロレアでの現場状況に関して深い知見を有する現地管理職教員組合幹部を招いて、その分野を国際的にリードする同大学研究者とともに、専門的見地からの知見の提供ならびに日本の状況との比較分析にかかわる議論。

④スターリング大学では、中等教育水準から高等教育段階への接続に関して、実践的経験も豊富な研究者との意見聴取ならびに日本の状況との比較分析にかかわる議論。

⑤グラスゴー大学では、その成人向け大学入学予備課程の3つの授業(生物学・法学・数学)を参観し、実践状況を実物資料に基づく担当教員へのヒアリングの実施

⑥また同大学では、本課題に即したセミナーが、私柳田が話題提供をする形(招待講演)で実施

⑦成人の高等教育進学支援のための公益法人である SWAP ウェスト(Scottish Wider Access Programme West and Central Consortium)の専門指導員と、修了者の高等教育進学後の状況に関するヒアリング(なお、その多くのやりとりは電子メール上であり、面会自体は短時間)

⑧高等教育進学が伝統的に限られていたロンドンの貧困地域であるハックニーに立地するブルックハウス・シックス・フォーム・カレッジ(Brooke House Sixth Form College 略称 BSix)を訪問し、ロンドン大学教育研究所と連携した取り組みであるシックス・フォーム・カレッジ・バカロレア(Sixth Form College Baccalaureate)に関する関係教職員と受講生とのヒアリング
なお、ロンドン大学教育研究所と関係する研究者とのヒアリングは、予定者の体調不十分などにより実施できず、今後の作業となった。

4. 研究成果

数値的統一国家尺度について、連合王国内における後期中等教育修了段階での多様な能力認証での取り組みとのかかわりおよびそこでの課題が、より明確となった。同じ学校教育機関に入学した同級生同士にその統一国家尺度での水準にずれが生じてしまっている実態など、理念通りの運用ができていない状況も確認できた。

そして今後の課題を以下の通り具体的に示す。それらは申請当時掲げていたものに対応する。

(1)3年間の調査研究を比較対照表によって示す。具体的には、イングランド・スコットランド・ウェールズから送り出した各資格(国際バカロレアを含む)の取得者が、入学者選考時に認証された能力に対応して、各地域の受け入れ先の高等教育機関においてお互いにどのような対応をしているのかを、いわば比較対照表として整理できる形にしていく。

(2)UCAS Tariff の運用に際して論理的な一貫性をどのように確保しているのか(いないのか)を提示する。その際併せて、現場で共通するような暗黙知があるのかないか、また特に組織的対策が公式もしくは非公式であるのかについても、その背後にある論理・信念体系等を異同についても整理した

形で提示していく。

(3) 連合王国内の多様な能力認証への数値的統一国家尺度について、日本との比較の上でより明解に示す。

今後の課題への対応は、引き続き採択となった科研課題である「国際バカロレア・モデルによる職業・キャリア教育の可能性 - イギリスを手がかりに-」にて 3 年間の共同研究という形で、引き継ぐことになる。その具体的な作業のための枠組みは、平成 25(2013)年 7 月の学会発表にて原案となるものを提示することになる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

①柳田 雅明(2011). 「ウェールズ・バカロレアにおけるパフォーマンス評価の検討 - 全国共通到達度枠組みの下における高等教育機関入学者選考との関連を中心に-」『教育目標・評価学会紀要』21: pp. 57-66. (査読付き)

②柳田 雅明(2011). 「「知の循環」という観点から見る能力認証制度 - イギリスの「資格・単位枠組み」を事例に-」『日本生涯教育学会年報』32: pp. 217-225. (査読なし)

③柳田 雅明(2010). 「能力認証に関する国レベル枠組みの動向 - イギリス(イングランド)における NQF から QCF への移行を事例に-」(教育制度国外最前線情報)『教育制度学研究』17(日本教育制度学会): pp. 216-220. (査読なし)

[学会発表] (計 9 件)

①YANAGIDA, Masaaki. 2013/03/25 Adult and Lifelong Learning in the UK and Japan - the definition of 'a qualified HE entrance student.' keynote presentation, CR&DALL Seminar Series 2013, University of Glasgow, United Kingdom.

②柳田 雅明・花井渉・飯田直弘 2012/08/26 「イギリスにおけるバカロレア方式 - 公費セクターを中心に-」日本教育学会第 71 回大会、名古屋大学東山キャンパス

③柳田 雅明 2012/06/16 「包摂性の観点から見るバカロレア方式 - ウェールズ・バカロレアに焦点を当てて-」日本比較教育学会第 48 回大会、九州大学箱崎キャンパス

④柳田 雅明 2011/08/26 「入学者選考の観点から、成人向け高等教育進学準備課程を検討する - スコットランドからの示唆を求めて-」日本教育学会 70 回大会、千葉大学西千葉キャンパス

⑤柳田 雅明 2011/07/16 「カリキュラムを全国的に設計する際、スタンダードとは何なのか - スコットランドを検討することによってその原点を探求する」日本カリキュラム学会第 22 回大会、北海道大学

⑥柳田 雅明 2010/12/12 「ポートフォリオ評価における全国水準枠組みの位置付け - イギリスの中等教育事例に焦点を当てて-」教育目標・評価学会第 21 回大会、東京学芸大学

⑦柳田 雅明 2010/11/28 生涯学習政策研究フォーラム 「知の循環型社会と生涯学習」招待講演 日本生涯教育学会 第 31 回大会、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

⑧柳田 雅明 2010/10/17 「イギリスにおける「資格・単位枠組み」の検討 - 基礎学力と職業的力量との関連を中心に-」日本産業教育学会大会第 51 回大会、東海学園大学名古屋キャンパス

⑨柳田 雅明 2010/07/04 「後期中等教育段階における学習到達度国家統一枠組みの検討 - イギリスにおける UCAS Tariff とパフォーマンス評価とをめぐって-」日本カリキュラム学会第 21 回大会、佐賀大学本庄キャンパス

[図書] (計 2 件)

①小澤 周三・新井 吾朗・柳田 雅明・白幡 真紀(2013) 「イギリスの職業教育・訓練」『産業教育・職業教育学ハンドブック』, 大学教育出版, pp. 230-233.

②柳田 雅明(2012). 「継続教育カレッジ」「サンドウィッチ・コース」「若年者職業訓練プログラム」「ストーリーミング」「全国一般職業資格(GNVQ)」『比較教育学事典』, 東信堂, pp. 150, 187, 201-202, 238, 250.

ホームページ等

①柳田 雅明 「イギリスにおける能力認証制度」および「イギリスの「資格・単位枠組み」」『生涯学習 e 事典』(日本生涯教育学会) ホームページ <http://ejiten.javea.or.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

柳田 雅明 (YANAGIDA MASAAKI)
青山学院大学・教育人間科学部・教授
研究者番号: 20260523

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし